

しるばあくらぶ

第13号

SILVER CLUB Office : B-4 L-12 Ph 5BB, Cristobal St. Gatchalian, Subd., Las pinas City TEL:820-3140

日本人戦没者慰霊祭

毎年終戦記念日に行われる日本大使館主催の「日本人戦没者慰霊祭」が今年も8月15日午前9時半からカリラヤ日本庭園で開催されました。

日本人同士が気軽に集まって楽しく過ごす。各種事業には手を出さず、純粋に親睦だけを目的に活動しているシルバークラブですが戦没者慰霊祭の行事だけは例外で会として毎年参加しています。それは多くの方の尊い犠牲の上に現在の平和と繁栄が成り立っていると誰もが言うことを、文字や言葉だけではなく、そう思う心をせめて参拝して手を合わせようとするからです。またこの慰霊碑には日本人の倍もの犠牲になられたフィリピンの方達が祀られています。多大な迷惑をかけたことに対してこの国に住ませて戴いている私達がお参りをするのは自然な気持ちとも言えます。突き詰めて考えればいろんな意見が出るかもしれませんが、理屈を抜きにして1年に一度こういう時間があっても良いと思います。

今年の慰霊祭は今までと少し状況が違いました。カリラヤの戦没者慰霊祭は毎年良い天候に恵まれるという定評があり、知る限りではこの13年の間に雨が降ったのは2回だけです。それも不思議なことに1回は式典の前にあがり、もう1度は式典の間だけピタッと止んで式が終わるとまた降り出すという経緯でした。今回は初めて雨の中での慰霊祭でしたがそれでも参列者による献花が始まると次第に雨は止みはじめました。今年は戦後61年ということで節目の年ではありませんが、アロヨ大統領のメッセージがあり、いつも通りラ・メールの歌声も流れて厳粛な慰霊祭でした。基本的に「許す」ということを知っている国民性のフィリピン、そしてその国に住む身の有り難さと温かさを感じるひとときでした。



参列者による献花。向かって右端小林氏、関根氏



参拝記念にシルバークラブの仲間が集まり慰霊碑の前で

フレンドシップのバスツアーに参加

マニラ(DUSITHOTEL前)ーカリラヤ慰霊祭ー山下大将、本間中将碑ーA(モンテンルバ)・B(温泉プール)

戦没者慰霊祭の参加に関連して、初めての人および希望者は岩崎氏のフレンドシップが企画するツアーを利用した。早朝マニラを出発して、慰霊碑参拝のあとA・Bのコースに分かれて目的地に向かった。参拝に向かう車中でのガイド(ヒデコさん)はフィリピンにおける戦史を深く勉強しているようで、細部にわたる戦況説明が行われ、それを聞いただけでも参加費を払った以上の値打ちがあるように思えた。

○Aコース(モンテンルバ)：戦犯者(にされた方達)の慰霊碑及び関係者によって乾坤された慰霊碑参拝。刑務所内見学を希望したが翌日の要人來所に備えて清掃中のため中に入れず。外観と周辺のみ見学。
○Bコース(ラグナ湖の島)：港より専用船にて目の前にあるリゾート島に渡る。ホテルのプールはきれいな湧き水。水泳する者あり、温泉につかる者あり、バーベキューで乾杯など良き時間を過ごしました。

拉 致

マニラ新聞の報道でご存知の通り会員の栗田睦子さんがレッカー車を使った拉致事件に遭いました。編集部から新聞に出ていない部分や細部いきさつなど教訓事項も含め話して頂くようお願いしたところ手記を送って下さいました。

◇栗田さんから聞いた話および手記の要約

被害に遭ったのは8月17日午後1時過ぎ。栗田さんは古くから「マニラ俳句の会」で活動している。この日、ケソン市内に住む俳句友達で91歳になるおばあさんの退院祝いに行く途中の出来事でした。退院祝いに行く話を聞いたシルバークラブの岸川氏ご夫妻が忙しい栗田さんに代わって御赤飯と卵焼きを作って届けてくれました。これに常備菜や下着を添えて11時15分にパラニヤケを出発しました。初めて行くところなのでドライバーには前日勉強をさせておいたのですが思うように行かず途中で道を尋ねながら進み、何度目かにドライバーがエンジンをかけたまま降りて道路にいた17歳前後と見える茶髪頭の少年に道を聞いた。少年は座席を覗き込み、栗田さんを見るや運転席に乗り込んできた。間をおかず前にレッカー車が現れ、駐車違反という名目で車をつなぎ始めた。運転手のフロリドさんは20年以上勤める真面目で気の利く人だが駐車違反ではないと抗議しても「言い分はバランガイホールで言え」と聞き入れられない。不審を察知したフロリドさんは栗田さんに口を開かないようにと、手で合図した。少年はタガログ語で「どこへ行くのか」と何度も聞く、栗田さんも「拉致される」ことを直感して咄嗟にオシとツンボを決め込み手話をはじめた。その時少年は「とんでもない婆さんをつかんだ」といったそうです。口をあけて馬鹿の真似をつづけながら密かに時計や指輪を外してポケットに入れ、くちゃくちゃにしたチリ紙をぎっしり押し込んで塞ぐなど、さすが日頃から皆に女傑と思われているだけあってその落ち着きと冷静さはたいしたものです。

かなり長時間走ったが、途中2度ほど窓をあけて笑いながらポリスに話しかけたり、まるで仲間のような気安さだったのでそのあと小銃を持った6名のポリスが現れた時はてっきりニセ警察官と勘違い、「あれこれ益々大変なことになりそうだ」と思っ

たが銃や刃物で脅されていなかったので身代金さえ払えば開放されると確信していた。ただ、工面のあてを考えると、2ヶ月くらいの監禁を覚悟したという。ところがその覚悟とは裏腹に、フロリドさんの事情説明を聞いたポリスはレッカーのロープをほどいてくれたので本物と判明した。次々と急激に変化する状況に戸惑いながら一先ずホッと胸をなで下ろす。ポリスは容疑者に同市の国家警察まで同行するよう命じた。しかし身柄を拘束してなかったのが向かう途中、運転席にいた少年とレッカーの前後に乗っていた容疑者7人がアッとという間に車から飛び降りて逃げ出した。その内2名が捕まり犯人ともども警察に行ってたっぷり2時間以上待たされたあと開放。赤飯を待つおばあさんのもとに着いた時は既に日が暮れていた。と、ここまでが事件のあらすじです。

◇続けて栗田さんのことば。(手記も含む)

1. 被害に遭って犯人の少年を養めるのもおかしい話したが運転のテクニックは大したものだった。
2. あの日は緊張の精か何ともなかったが、2日目から熱が出てお腹をこわし調子がよくありません。
3. 道を聞くときは少し回り道をしてでも人の多いところかガソリンステーションにかざると思った。
4. 私が訴えない限り罰金を払うだけで犯人にはならないんだって。今回の罰金は無認可のレッカー移動6千ペソ、私の車の拉致料2千ペソですって。
5. 調べに立ち会ったフロリドさんの話では、この事件が多発しており警戒を強化していたが手掛かりがなく困っていたらしい。今回のことで捜査が容易になったということ、私が陰の功労者でしょ。

◇栗田さんは体調を崩し「やっぱり私も普通の女だということがわかりました」としながらも手記を書いてくれました。拉致被害に遭った人の手記というより、拉致事件の観察レポートとも言えそうな内容ですがやはり女傑です。まずは無事帰れて良かったです。

マニラ・シルバー会より、例会のお知らせ

マニラシルバー会は、会員同士が定期的に集まり情報交換や近況報告、思い出話などしながら気軽に談笑するサークルです。純粋な親睦だけの会を目指しています。基本的に55歳以上で健全な方、良き親睦の育成にご協力頂ける方のご参加お待ちしております。右記の通り例会を開催します。参加ご希望の方はシルバー会事務所 TEL:820-3140 又は石山会長 0927-877-4942 小林副会長 0915-354-4528 堀井副会長 0918-918-6526 までご連絡ください。◇なお、新しくご入会される方は整理の都合上現会員の紹介を受けて下さるようお願い致します。

◎10月18日(水)午後6時～午後8時
パラニヤケ市「レストランうらしま」にて
会費P.500- (日本料理・生ビール付き)

←マニラ	サウススーパーハイウェイ	アラバン→
ス		President Ave.
1		Teovill.BF Homes
カ	マクド	うらしま
ッ	M	Paranaque City
		Tel:820-9895
ト	プレジデント Av.	
R		カーテックス
D		

拉 致

マニラ新聞の報道でご存知の通り会員の栗田睦子さんがレッカー車を使った拉致事件に遭いました。編集部から新聞に出ていない部分や細部いきさつなど教訓事項も含め話して頂くようお願いしたところ手記を送って下さいました。

◇栗田さんから聞いた話および手記の要約

被害に遭ったのは8月17日午後1時過ぎ。栗田さんは古くから「マニラ俳句の会」で活動している。この日、ケソン市内に住む俳句友達で91歳になるおばあさんの退院祝いに行く途中の出来事でした。退院祝いに行く話を聞いたシルバークラブの岸川氏ご夫妻が忙しい栗田さんに代わって御赤飯と卵焼きを作って届けてくれました。これに常備菜や下着を添えて11時15分にパラニヤケを出発しました。初めて行くところなのでドライバーには前日勉強をさせておいたのですが思うように行かず途中で道を尋ねながら進み、何度目かにドライバーがエンジンをかけたまま降りて道路にいた17歳前後と見える茶髪頭の少年に道を聞いた。少年は座席を覗き込み、栗田さんを見るや運転席に乗り込んできた。間をおかず前にレッカー車が現れ、駐車違反という名目で車をつなぎ始めた。運転手のフロリドさんは20年以上勤める真面目で気の利く人だが駐車違反ではないと抗議しても「言い分はバランガイホールで言え」と聞き入れられない。不審を察知したフロリドさんは栗田さんに口を開かないようにと、手で合図した。少年はタガログ語で「どこへ行くのか」と何度も聞く、栗田さんも「拉致される」ことを直感して咄嗟にオシとツンボを決め込み手話をはじめた。その時少年は「とんでもない婆さんをつかんだ」といったそうです。口をあけて馬鹿の真似をつづけながら密かに時計や指輪を外してポケットに入れ、くちゃくちゃにしたチリ紙をぎっしり押し込んで塞ぐなど、さすが日頃から皆に女傑と思われているだけあってその落ち着きと冷静さはたいしたものです。

かなり長時間走ったが、途中2度ほど窓をあけて笑いながらポリスに話しかけたり、まるで仲間のような気安さだったのでそのあと小銃を持った6名のポリスが現れた時はてっきりニセ警察官と勘違い、「あれこれ益々大変なことになりそうだ」と思っ

たが銃や刃物で脅されていなかったので身代金さえ払えば開放されると確信していた。ただ、工面のあてを考えると、2ヶ月くらいの監禁を覚悟したという。ところがその覚悟とは裏腹に、フロリドさんの事情説明を聞いたポリスはレッカーのロープをほどいてくれたので本物と判明した。次々と急激に変化する状況に戸惑いながら一先ずホッと胸をなで下ろす。ポリスは容疑者に同市の国家警察まで同行するよう命じた。しかし身柄を拘束しなかったのが向かう途中、運転席にいた少年とレッカーの前後に乗っていた容疑者7人がアツという間に車から飛び降りて逃げ出した。その内2名が捕まり犯人ともども警察に行ってたっぷり2時間以上待たされたあと開放。赤飯を待つおばあさんのもとに着いた時は既に日が暮れていた。と、ここまでが事件のあらすじです。

◇続けて栗田さんのことば。(手記も含む)

1. 被害に遭って犯人の少年を養めるのもおかしい話したが運転のテクニックは大したものだった。
2. あの日は緊張の精か何ともなかったが、2日目から熱が出てお腹をこわし調子がよくありません。
3. 道を聞くときは少し回り道をしてでも人の多いところかガソリンステーションにかざると思った。
4. 私が訴えない限り罰金を払うだけで犯人にはならないんだって。今回の罰金は無認可のレッカー移動6千ペソ、私の車の拉致料2千ペソですって。
5. 調べに立ち会ったフロリドさんの話では、この事件が多発しており警戒を強化していたが手掛かりがなく困っていたらしい。今回のことで捜査が容易になったということ、私が陰の功労者でしょ。

◇栗田さんは体調を崩し「やっぱり私も普通の女だということがわかりました」としながらも手記を書いてくれました。拉致被害に遭った人の手記というより、拉致事件の観察レポートとも言えそうな内容ですがやはり女傑です。まずは無事帰れて良かったです。

マニラ・シルバー会より、例会のお知らせ

マニラシルバー会は、会員同士が定期的に集まり情報交換や近況報告、思い出話などしながら気軽に談笑するサークルです。純粋な親睦だけの会を目指しています。基本的に55歳以上で健全な方、良き親睦の育成にご協力頂ける方のご参加お待ちしております。右記の通り例会を開催します。参加ご希望の方はシルバー会事務所 TEL:820-3140 又は石山会長 0927-877-4942 小林副会長 0915-354-4528 堀井副会長 0918-918-6526 までご連絡ください。◇なお、新しくご入会される方は整理の都合上現会員の紹介を受けて下さるようお願い致します。

◎10月18日(水)午後6時～午後8時
パラニヤケ市「レストランうらしま」にて
会費P.500- (日本料理・生ビール付き)

←マニラ	サウススーパーハイウェイ	アラバン→
ス		President Ave.
1		Teovill.BF Homes
カ	マクド	うらしま
ッ	M	Paranaque City
		Tel:820-9895
ト	プレジデント Av.	
R		カーテックス
D		

マージャン大会

9月10日(日)10:00am~4:00pm.事務局ゲーム室
理事会で話が持ち上がり、初めは1卓でも2卓でも
いいからどんどん企画して実行に移そうと即決定。
同好者に声をかけ大会マージャンを実施しました。
今回の参加者は8名。A・Bに分かれ半荘2回づつ
行った後、上位2名同士と下位2名同士が組になり
2回実施。計4回の合計点数で順位を競いました。
マージャンはゲームだけではなく競技中の他愛ない
会話も面白いものです。昼は石山会長夫人手作りの
カレーをいただき、結構楽しい一日を過ごしました。

	1回目	2回目	3回目	4回目	合計
小林氏	-19	-17	+07	+25	-004
松村氏	-02	-16	-22	+26	-014
岸川氏	-11	-23	-49	-16	-099
伊藤氏	+32	+56	+28	+0	+116
石山氏	-15	-03	+46	+06	+034
堀井氏	+24	+24	+06	-13	+041
安藤氏	-05	-21	-04	-15	-045
山口氏	-04	+0	-12	-13	-029

第1位：伊藤氏。第2位：堀井氏。第3位：石山氏。



編集者のうっかりミスで競技中の写真撮りわすれ。
岸川、松村両氏が帰った後で気が付き 記念に一枚。



オリーブと金塊、探して歩いたが見つからず。現地
素材の冠とメダルで童心に返って表彰式のひと時。

ボクの履歴書(10) 賢い九官鳥のお話 山口陽一

今回は栗田さんの誘拐事件がありましたので、ボクの体験記の中から
栗田さんに関連したお話をしましょう。1998年に書いたものです。

自分が栗田のお母さんのところへ「お灸」に通っ
ているのを知っている人は多いと思います。母さんは
例会の席でこそ会長に遠慮してか、比較的静かです
けど本当は男の人でも、また、自分の患者さんにで
も叱りとばしている可愛げの少ない女性なんです。
自分はいつも「頭が汚い、よく洗え」と叱られていま
した。で、先日、髪を洗い胸を張って出かけました。
治療室に入るなり「何その頭、ボサボサで！不細工な」
と早速小言です。せっかくいい匂いのするピンク
色の石鹸で頭を洗って、「今日は誉めてもらえる」と
思って来たのに、それには触れずその言葉。試しに
側にいた母さんのドライバーに「アコ、パンギット？
(俺は不細工か)」と尋ねたら、母さんの目が光って
いるので彼は首を立てに振った。気を良くした母さん
は「うちの九官鳥でもパンギットて言うわ」と追い
討ちをかけてくる。栗田家にはドッグブードで育て
られた九官鳥がいる。乗りやすい自分は、治療前の
裸のまま裏庭の鳥籠の前に行って「アコ、パンギット
(俺は不細工か)？、グアボ(いい男か)？」、と強めの
口調で聞いた。鳥は何も言わずに止まり木をせわし
く動き回り、やがて口に水を含み上向きにククッと

飲み干し「グアボ」と叫んだ。続いて2度3度。同じ
言葉を繰返すというこの鳥の習性を知っていたので
言葉を翻らせる心配はない、と確信して帰りかけた
その背中に何度も「グアボ」の声が追いかけてくる。
部屋の扉を開けるなり、留め！とばかり「グアボ」と
母さんや他の患者さんにも聞こえる一きわ高い声で
鳥は言った。「パラワンからまだ毛の生え揃わんうち
に連れて来て育てたのに、ウソ言いよった」。母さん
がこぼす。(母さん、鳥はねウソ言ったんじゃないか
と思った通り素直に言っただけなんだよ)。母さんは
それきり鳥の話はしなくなり、代わりに拾ってきた
ネコの子を誉めはじめた。栗田家にはネコのくせに
ポチという名前をもらった仔猫がいる。「鼠は捕るし
雀は捕るし、オシッコは排水溝に行ってするし、賢
いナー、可愛いナー、ホラ見てみイ」。自分は何度か
話題を鳥の方に戻そうと試みましたが無駄でした。
この変わりよう、愛らしいではありませんか。

このお話は鳥から良い返事をもらったうれしさで
書いたものではありません。日頃から豪快で「女傑」
と思われている栗田の母さんの一面をお知らせした
だけのものです。